

『専門日本語教育研究』第25号論文賞

アスリート留学生のための日本語教育の展開
—日本人部員へのインタビュー調査の質的分析から—

正宗鈴香（大東文化大学国際交流センター）

〔授賞理由〕

本論文は、スポーツ推薦型選抜入学試験等で日本の大学に進学したアスリート留学生に対して、どのような日本語教育が考えられるか考察したものである。アスリート留学生は近年増加しているが、その特性に注目した日本語教育についての研究は少ない。研究手法としては、バスケットボール部の日本人部員4名に対して半構造インタビューを実施し、SCAT手法を用いて解析している。その結果、次の5つの上位のカテゴリーが得られた。

〔1〕コミュニケーション場面、〔2〕協働意思、〔3〕部の成員としての自覚、〔4〕主体性・自己成長・技術力向上、〔5〕日本語。

結論としては、アスリート留学生が「専門（競技）の分野での活動を可能にする」レベルは、メンバーと共に成長できるための言語行為でのインターアクション能力を有するレベルであり、専門日本語を学ぶ目的は、強いチームを作る原動力となる競技日本語を習得し、お互い成長できる立場でチームを作り上げていくこととしている。さらには、「スポーツ日本語」という新しい領域の日本語教育の開発には、抽出できたカテゴリーを構造化し、教育内容や教育方法を検討していくことが足がかりになるとしている。

本論文は趣旨・手続き・結論が明快である。「アスリート留学生」への「スポーツ日本語」の教育を専門日本語教育の中に位置づけ、狭い意味での日本語教育ではなく、受入れの社会的文脈、高校から移行する学部レベルの教育の位置づけ、日本語教育との関連づけを踏まえた統合的な教育として捉え、それを主張する根拠も明確である。小規模の質的分析ではあるが、チームスポーツにおけるコミュニケーション研究とも関連するもので、大学における専門日本語教育の現場に有益な示唆を示したものであると評価できる。

以上のことから、本論文を専門日本語教育学会論文賞の受賞対象論文としてふさわしいものと判定した。